



「ピッコラーレ」とは

ピコ(「おへそ」「中心・核」を意味するハワイ語)とコッコラーレ(「寄り添う」を意味するイタリア語)を組み合わせた造語です。相談窓口や相談支援員が、たった一人で漂流しなければならなかった相談者にとって安心でほっとできる潮溜まりのような居場所でありたいという想いを込めています。

団体概要

団体名称

認定NPO法人 ピッコラーレ

団体ヒストリー

2015年 9月	助産師6名、社会福祉士1名で任意団体として「にんしんSOS東京」を発足
2015年12月	妊娠葛藤相談窓口「にんしんSOS東京」を開始
2016年 3月	一般社団法人にんしんSOS東京を設立
2018年11月	特定非営利活動法人ピッコラーレ設立
2019年 4月	全ての事業を一般社団法人にんしんSOS東京からピッコラーレに移管
2020年 6月	妊婦のための居場所づくりprojectHOME第1号「びさら」受け入れ開始
2022年12月	認定NPO法人を取得

Piccolare Annual Report 2025

認定NPO法人ピッコラーレ 2025年度活動報告書

発行 2026年9月

認定NPO法人 ピッコラーレ

〒171-0021 東京都豊島区西池袋5-10-24深野ビル2F



050-3134-4479



info@piccolare.org



https://piccolare.org



project HOME



https://home.piccolare.org/



Facebook



X



メルマガ



note



Instagram



認定NPO法人

ピッコラーレ



絵・相野谷 由起

代表あいさつ

「にんしん」をきっかけに、だれもが孤立せず、自由に幸せに生きていける社会へ

ピッコラーレを支えてくださる皆さまへ

日頃より、ピッコラーレの活動にあたたかいご支援とご理解を賜り、心より感謝申し上げます。
2025年度、妊娠葛藤相談窓口「にんしんSOS東京」は、開設10周年を迎えました。開設当初から1日も休むことなく窓口を開き続けることができたのは、共に取り組む仲間の存在と応援し支えてくださる皆様のおかげです。本当にありがとうございます。

そのような節目の年、「ぴさら」のすぐ近くにあるガールズバーのトイレで、そこで働いていた女性が、妊娠を誰にも打ち明けられないまま出産し、生まれたばかりの赤ちゃんが亡くなるという事件がありました。女性はその後、赤ちゃんを殺害した罪に問われ、実刑判決を受けています。
「相談すれば良かった。」
これは、裁判で女性が語った言葉です。
現場は「ぴさら」から歩いて5分ほどの場所でした。

そんな近くにいたにもかかわらず、彼女と出会うことも、お腹が大きくなっていく彼女に気づくことも、数百メートル先に相談できる人がいることを伝えることもできませんでした。
どうしたら出会うことができたのか、何かできることはなかったのか。
妊娠葛藤相談窓口はこの10年で全国に広がり、70ヶ所以上にのびます。インターネットで検索すれば、いくつもの相談先が検索結果に出てきますし、電話やSNSに加え面談や同行支援を行う窓口も増えています。国も「思いがけない妊娠の相談サイト」を立ち上げ、「あなたを支える仕組みがあります。どうか繋がって」と、周知を始めています。
それでも。
どれだけ窓口が増えても、本人にその存在が認知され、頼ってもいいと思ってもらえなければ何もできません。
どうしたら、妊娠してひとりぼっちでいる人と繋がることができるのでしょうか。

たとえば、「思いがけない妊娠は誰にでも起こりうること」であり、困ったときには相談できる場所があることを、困ってからではなく、その前から誰もが知っていることが大切です。
性や妊娠について正しく学ぶ機会があることももちろん必要です。
ですが、どんなに学んで知識があったとしても、避妊や緊急避妊薬、そして性に関する医療に誰もがアクセスできる仕組みがなければ、思いがけない妊娠を減らすことはできません。
孤立したまま妊娠を一人で抱えている状況というのは、お腹の赤ちゃんに妊娠している方の命が危険にさらされている状況です。思いがけず妊娠をしたとき、その妊娠の先にあるのは出産だけではなく、流産や死産、そして中絶もあります。どんな場合にも保健や医療、そしてお金も必要です。
「自分を大切に」と伝えながら、そのために必要な知識や制度、医療へのアクセスを社会が用意していないのだとしたら、その現状を変えなければならないと、私たちは本当に思っているでしょう。
性に関する医療にアクセスできなかった結果、犯罪者になってしまう女性を生み出す現状を自己責任だからと無視するのだとしたら、それはなんて不平等なのでしょう。



母体保護法の配偶者同意など、性による差別が残る法律をそのままにして「自分の体のことは自分で決めていい」と言っても、それは実現しません。
SRHR（性と生殖に関する健康と権利）が当たり前に尊重される仕組みと、妊娠した人を「なぜ妊娠したのか」と責めるのではなく、これからをともに考え、支えるまなざし。その両方がある初めて、孤立した妊娠を防ぐことにつながるのだと、私たちは考えています。
「相談すれば良かった。」
この言葉を、もう誰にも言わせたくありません。
まだ出会えていない、一人のために。
ピッコラーレは、その人が「相談してみよう」と思える社会を、そして妊娠をきっかけに誰もが孤立せず、自由に幸せに生きていける社会を、皆さまと一緒につくっていきたいと思います。
いつも共に在ってくださるみなさまに心からの感謝を込めて。

認定NPO法人ピッコラーレ

代表理事

中島 かおり

ピッコラーレが取り組む4つの事業 「にんしん」をきっかけに誰もが孤立しない社会へ

- 1
相談支援事業

「にんしんSOS東京」「にんしんSOS埼玉」「にんしんSOSちば」などの相談窓口を運営。中絶後の相談窓口「PUPU」も設置しています。
- 2
居場所事業（project HOME）

居場所をなくしたすべての妊婦等へ「安心・休息・希望」を届ける居場所の運営。包括的性教育の普及活動も行っています。
- 3
研修・啓発

相談窓口の普及や、支援現場で役立つスキルの向上を目的とした支援員の育成・研修を行います。
- 4
調査研究・政策提言

現場の声を社会課題として可視化するため、白書の作成や政策提言、要望書の提出などを行います。

365日開設の多様な相談チャネル

☎ 電話（16～23時） ✉ メール（24時間受付） 💬 チャット相談「ぴこトーク」（週5日/2時間）

【孤立させないための「寄り添い」】
相談から始まり、必要に応じ、面談や同行での社会資源への接続までをシームレスに行います



project HOME（居場所事業）の4つの支援

- ぴさら・ぴこさと

妊娠期から出産・産後の生活、その後のアフターケア、衣食住と心身の安全を保障します。


- AINA・マハロ

ピッコラーレと繋がったすべての女性と若年シングルマザーの居場所。これからの人生を一緒に考えます。
- ピコの保健室

中高生、若者の居場所での「出張型保健室」です。性に関すること、人間関係、将来のことなど、性別は問わず、なんでも話したり相談したりできる場です。
- ぴこカフェ

誰もが気軽に立ち寄れる、対話と交流を中心とした、若年女性の居場所です。





「にんしんSOS東京」開設10周年！

妊娠葛藤相談窓口「にんしんSOS東京」は、2015年の開設以降1日も休むことなく動き続け、2025年12月に開設10周年を迎えることができました。この間、さまざまな葛藤を抱える妊婦の存在やその背景にある社会課題が少しずつ知られるようになり、開設当時は日本に4か所程度だった妊娠葛藤相談窓口は、今や70ヶ所を超えました。それでもなお、生まれたばかりの赤ちゃんが命を落とす悲しい事件は後を絶ちません。「妊娠は自己責任」という社会の眼差しは根強く、「にんしんSOS東京」の窓口には「こんなこと」を相談していいのでしょうか」「すべて私の責任です」という声が届き続けています。現場で活動する相談支援員とともに、10年の歩みを振り返り、これからを考えました。

相談支援事業リーダーインタビュー



0日児死亡をなくすために

土屋麻由美（副代表・相談支援事業責任者）



にんしんSOS東京は、熊本の「こうのとりのかご」の実情を聞いた7人の仲間たちが「東京にも相談できる場所を」と立ち上がったことから始まり、「妊婦と赤ちゃんを死なせない」と必死な思いで走り学び続けてきました。活動を継続するために常に新しいチャレンジが求められてきましたが、慢性的に資金も人手も足りずいつもピンチ状態。周囲の方をヒヤヒヤさせてしまったかもしれませんが（笑）、活動に賛同しご寄付や技術の面で支えてくださる様々な人との出会いや支えに励まれ、相談者さんから教えられる言葉の一つひとつが、私たちを育ててくれました。

相談窓口の状況を振り返ると、妊娠に向き合わないパートナーや暴力の存在、対等とはいえない性の関係性など、妊娠葛藤を生み出す社会の状況はさほど変わっていないと感じます。10年経っても「誰にも知られてはいけない妊娠」は存在していますし、「誰にも言えない、話してはいけない」と葛藤を抱えている方と出会います。

日齢0日児虐待死亡は、個人の問題ではないと捉えています。支援制度は少しずつできていますが、より困っている人は支援にたどり着けない状況が依然としてある中で、本当に変わらなくてはならないのは社会の眼差しではないでしょうか。妊娠当事者一人ひとりが大事、こどもが大事という視点があれば、妊娠しても居場所を失わずに安心して生きていける社会へ、当たり前に変わっていくはず。そのためには、妊娠を「性と生殖の健康と権利（SRHR）」の視点からとらえ、社会全体で理解を深めていく必要があります。

これからも「にんしんSOS東京」は、日々の活動を振り返りながら、支援につながりづらい方がどうしたらつながれるかを考え、変化していきます。相談窓口を知ってもらうだけでなく、相談支援員が受け止め、一緒に考える。たとえすぐに解決できなかったとしても「また相談してみよう」と相談者が思えてつながり続けられること。そんな地道な積み重ねの先に「助けてもらえる」と保障される社会があると考えます。



2015年
にんしんSOS東京
開設



創立メンバーたちは
設立半年をお祝いし、
互いに労い合いました



調査・政策提言事業
透明化された妊娠葛藤を抱える人の存在を明らかにし
社会構造そのものへのアプローチ

2017年
コールセンタースystem、
アプリ電話 導入

2018年
にんしんSOS埼玉
（埼玉県より受託）



にんしんSOS埼玉

2019年
にんしんSOSちば
（千葉県より受託）



にんしんSOSちば

研修事業
支援者同士で学び合い、
つながる場



2020年
中絶後の相談窓口
「PUPU」開設

2020

2019年
産科の初診費用の助成制度創設

2015

2016

2017

2018

2019

2020

2021年
Twitterによる相談対応開始（2023年まで）

2021年
「妊娠葛藤白書」を発行



ぴこトーク

居場所事業
居場所のない“妊婦”のため
場所や包括的性教育を軸とした
取り組み

2021

2022

2022年
居場所のない妊産婦のための生活支援事業
「妊産婦等生活援助事業」法定事業化
（施行は2024年）

2022年
困難な問題を抱える女性への支援に関する法律 成立
（施行は2024年）

2023

2023年
チャット相談「ぴこトーク」開始

2023年
相談者数累計10,000人を突破
SNS検索ツールで広告、
相談件数が過去最大を更新

2023年
出産・子育て応援交付金
経口中絶薬 製造承認

2023年
国の政策の基本方針[※]に「性と生殖に関する健康と権利（SRHR）」を
尊重することや知る機会・場の充実が明記される
（※形成育産等基本方針、こども大綱）

現場の相談支援員に
聞きました！

AIから相談窓口を紹介されてくる相談者の存在。これまでなかなかつながりなかった方を、AIが連れてきてくれている感じがあります。

他の機関に向いた際に「何もできない」と支援を断られ帰されてしまうことが減り、支援が難しい状況でも一緒に考えてもらえることが増えた感じがします。一方で、まだまだ地域差はあり、特に緊急的な居場所については「妊婦が入れる場所はない」と言われたりすることがあります。

相談者に共通する本質的なことは変わっていない気がする。妊娠している本人だけが責任を負わされ、立場が弱い人がさらに弱い人を搾取していくような構造はあまり変わっていません。

少し前までは、同行支援先で「怪しい団体」と疑われたりすることもありました（笑）。コロナ禍もあり取材や同行支援が増えて認知度が上がり、連携もスムーズになってきたように感じています。

未成年の相談者に「彼氏からの相談も聞けるよ」と伝えたらとても驚いて、妊娠は“本人だけで抱え込むもの”って、こんなに早くから思い込まれているのだなと改めて感じました。男性の中からも「暴力的な性行動や搾取、妊娠した相手に無関心なのは恥ずかしい！」という空気がもって出てくるといいな。

支援現場での変化



「相談したいけれどできない」を乗り越えるために



● アクセス手段の広がり

「支援につながらない」の背景のひとつであるアクセスのハードルを少しでも下げるため、電話やメールのほか、Wi-Fiを活用した「アプリ電話」や、「ぴこトーク（チャット）」など多様になってきています。

● 広報

相談したときの具体的なイメージが持てるよう、やさしいタッチのイラストやことばを用いて、SNSを中心に具体的な相談例や正しい性に関する知識を発信しています。相談者の方の掲示板への書き込みなどの「口コミ」も私たちにとって心強い広報です。

ミッションの進化（2018年）



妊娠が確定する前の相談にも対応できることが伝わるように、ミッションを「私たちは、すべての命に付き添います。生まれる、生まれない。産む、産まない。すべてに、付き添います」から「にんしんにまつわる全ての“困った”“どうしよう”に寄り添います」へと変更しました。

1



10年を振り返って

総相談者数

14,895人

総対応件数

62,839回

同行支援件数

499件

開設から10年の実績 ※2015年12月～2026年3月



COVID19

2024

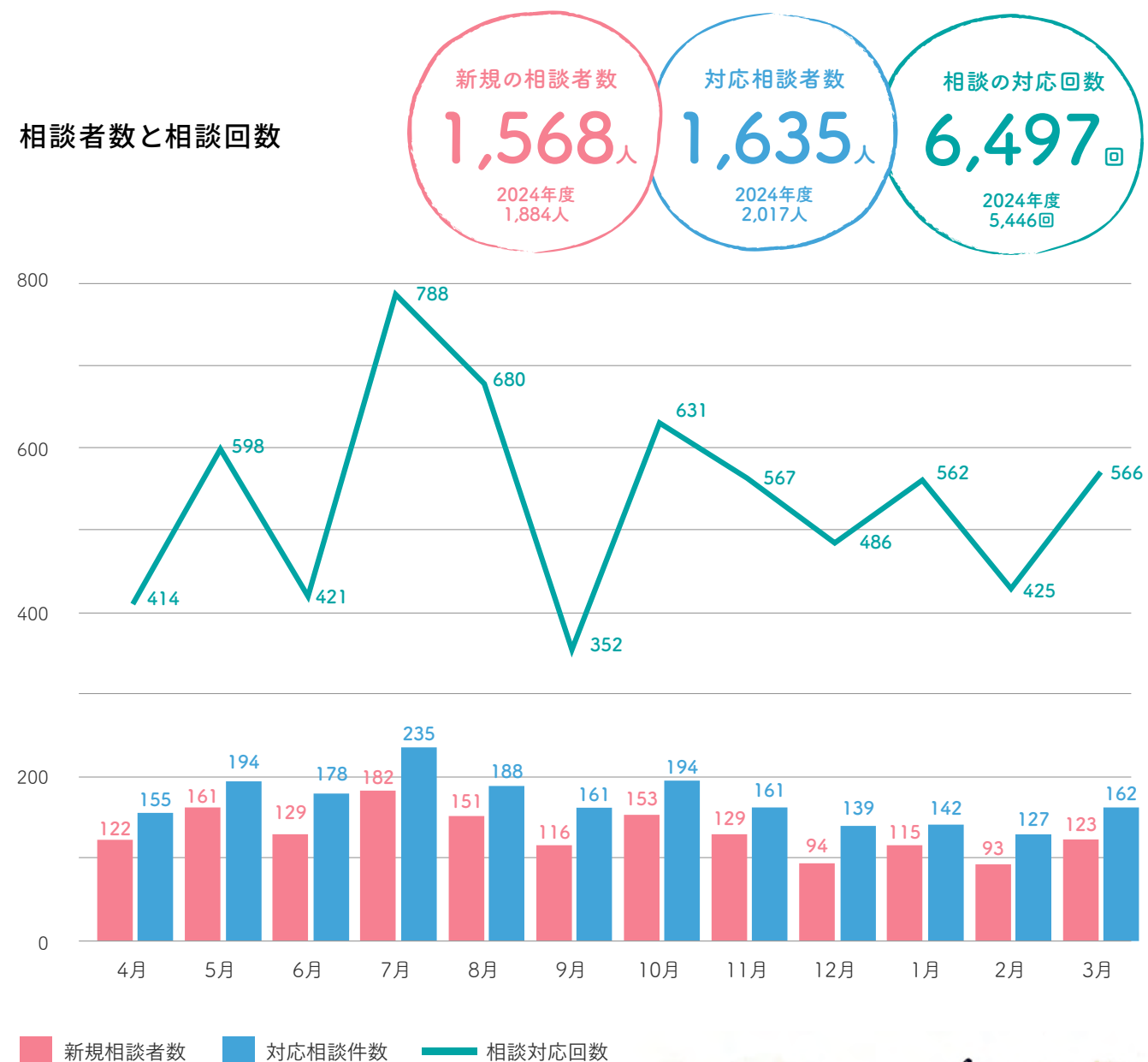
2025

2025年
緊急避妊薬スイッチOTC化承認
妊婦のための支援給付金 創設

1-1 相談支援事業

2025年度の相談やりとりの総回数は6,497回でした。相談者数は2024年度に比べて減少した一方、相談者に対するやり取り回数は増加しました。相談の中には、初回相談の翌日に面談・同行支援を行い一時的な居所を提供したケースや、緊急的な食料支援、お産が進行している状況での相談が入り、救急車要請を行ったケースなど、緊急度の高い相談や、継続的な支援を必要とするケースが見られました。

相談者数と相談回数



2024年4月1日～2025年3月31日 にんしんSOS東京



相談内容

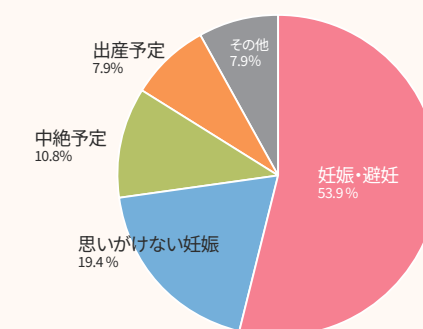
2025年度は、「妊娠確定前^{*1}の相談」の件数は2024年度と比較し、約11.8ポイント減少した一方、「妊娠確定後^{*2}の相談」は約11.4ポイント増加しました。そのうち、10代は相談件数が約200件減少した一方で、「妊娠確定後の相談」の割合が約6.9ポイント増加しました。

^{*1} 妊娠確定前とは検査薬で陽性が出る以前の相談（「妊娠・避妊」）

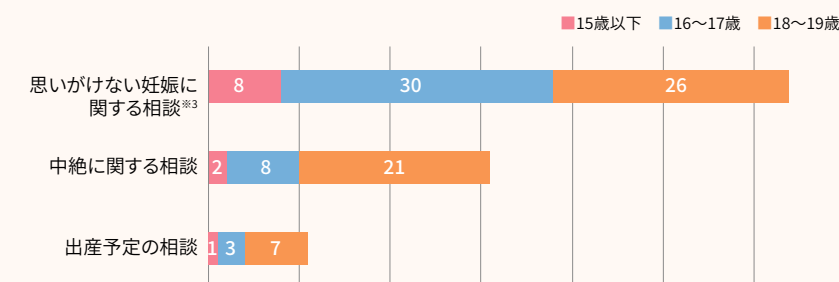
^{*2} 妊娠確定後とは検査薬で陽性が出た以降の相談（「思いがけない妊娠」「中絶予定」「出産予定」）

10代からの相談のうち、
妊娠確定後の相談は21.5%

相談内容 n=1635



10代 妊娠確定後の相談内容 n=106

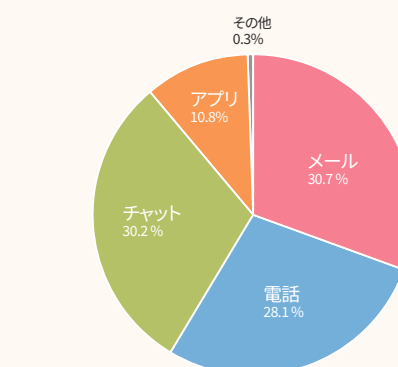


^{*3}「思いがけない妊娠に関する相談」とは、検査薬で陽性となったが、妊娠継続か中絶か葛藤している段階だけでなく、妊娠という事実戸惑い、まだ受け止められていない段階での相談も含みます

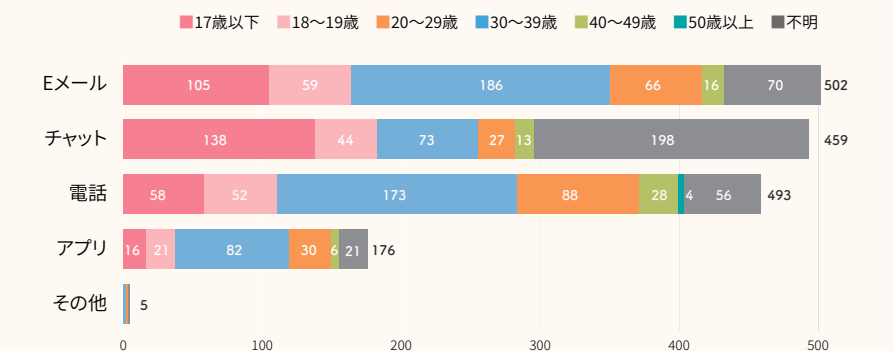
相談方法内訳

相談者が相談に選択する相談手段には変化がみられました。2024年度は電話相談（アプリ含む）が約50%を占めていましたが、2025年度は約10ポイント減少しました。一方、チャット相談は約13ポイント増加しました。チャット相談を週3回から週5回に増やしたことも一因と考えられますが、初回相談の手段としてチャットが選ばれる割合は前年度より高くなりました。メール相談は前年度と大きな変化はなく、約3割で推移しており、安定して利用されていました。

初回相談手段 n=1635



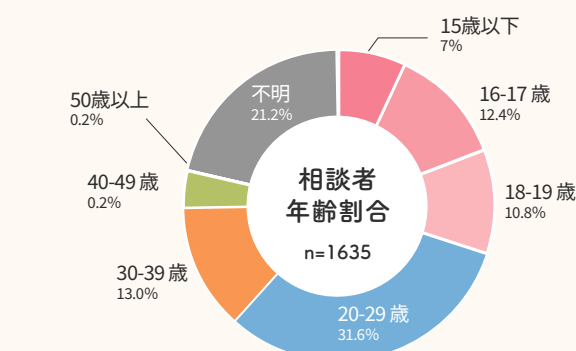
初回相談手段の年齢別割合 n=1635



※「アプリ」とは、Wi-Fiがあれば電話番号がなくても無料で通話できる専用アプリのこと。

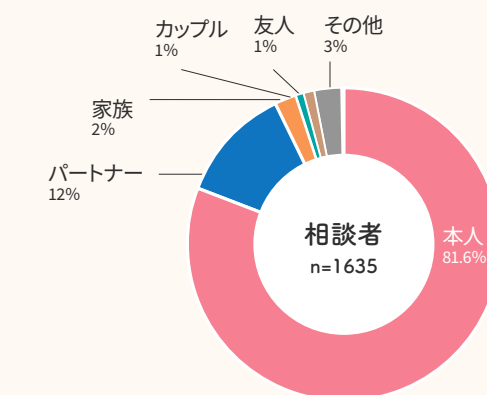
相談者年齢割合

2025年度も10代、20代からの相談が全体の65%を占め、若年層からの相談が引き続き中心となりました。未成年からの相談は全体の20%でした。



男性からの相談

男性からの相談は12%でした。にんしんSOS東京の開設当初から、男性からの相談はおおむね同程度の割合で推移しています。



妊娠は、女性だけでなく男性にとっても戸惑いや不安を伴う出来事です。男性もまた、妊娠という出来事に向き合う一人です。妊娠に関わる誰しもが自ら考え、選択できるよう、性別を問わず安心して相談できる窓口であり続けたいと考えています。

1-2 相談支援事業 面談・同行支援

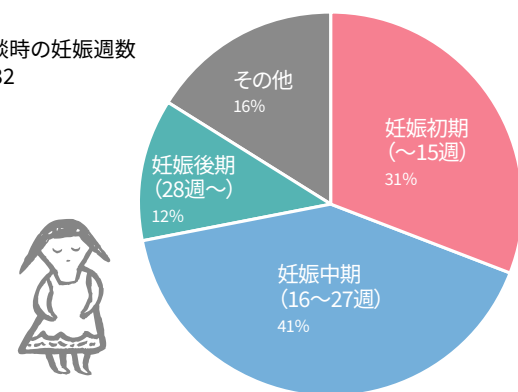


ピッカラーレは相談窓口開設当初より、「会いに行き、一緒に動く」という支援を大切にしてきました。ですがその中で、約束しても会えなかったり、キャンセルを繰り返したりするケースは珍しくありません。それでも、私たちが相談者とながらを持ち続けようとするのは、相談者の「いま、動けそう」となる瞬間を、拾い上げたいという思いがあるからです。私たちは、相談者が自ら必要な情報を選び取れるよう、一人ひとりの状況や思いに応じて情報を届け、気持ちの揺らぎを受け止めながら、相談者の一歩を待つ姿勢を大切にしています。

同行ケース 相談時の妊娠週数

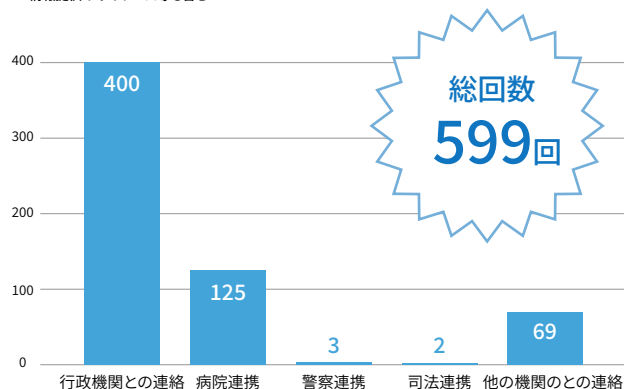
2025年度は、32ケース（同行総件数47件＋面談のみ5回）の同行がありました。前年度から同行ケースは2倍以上増加し、同行総件数も3倍となりました。

相談時の妊娠週数
n=32



関係機関（行政・病院・警察・弁護士・民間団体）とのやり取り総回数

※情報提供のみのケース等も含む



私たちは関係機関との連携も密に行っています。相談者の不利益にならないよう、連携先へ相談者の理解につながることを目的として、相談者の抱える思いを丁寧にお伝えしています。関係機関は行政機関や医療機関にとどまらず、司法・警察・警察・民間団体など多岐にわたります。2025年度は関係機関とのやり取り総回数が599件にのぼりました。

選択を支えるために“その一歩を待つ”支援

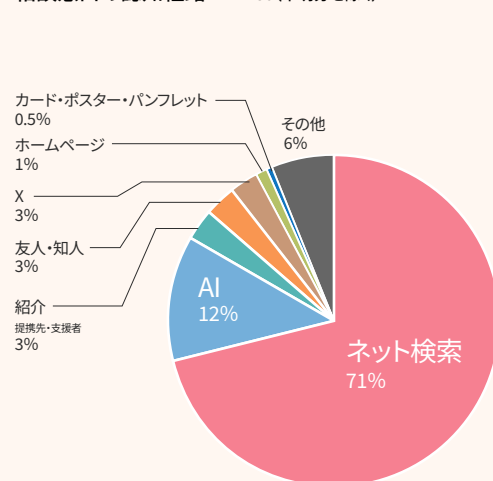
年齢や背景などに関係なく、“妊娠”という思いがけないできごとを受け止めるには時間が必要です。「誰にも相談できない」、「頼れる人はいない」、多くの相談者がこの言葉を口にします。助けを求めて相談窓口にとどり着いたけれど、そこには不安や、恐怖なども共存しています。

そしてそういった感情に自ら向き合うための力は常に持ってられるものではありません。メールや電話でじっくりと関係を築く以外にも、「まず会って、話して、整理しながら見通しを立てていく」という支援は、相談者の持つ一歩を踏み出そうとする瞬間を拾い上げられる方法だと考えています。会うことで、電話やメールだけでは見えなかった相談者の状況や様子に触れることがあります。戸惑いや切迫感、ときには怒りのように見える困惑に気がつくこともあります。こうした気づきは、相談者を知っていくための大切な手がかりとなります。語られた言葉の背景や、抱えている不安や恐怖をとともに探ることが、相談者が妊娠というできごとを受け止めるきっかけになると考えています。そして、自分で選択したという経験を重ねることが、選択の先にある生活を自分らしく歩んでいく力につながると信じています。

2025年度からは相談窓口を知った経緯としてAIと答える相談者が増加しました。10代20代の相談者はAIをきっかけに窓口を知る割合が高い傾向が見られる中で、相談の入口が変化したとしても、相談者が自ら選択していく過程を支えることは、これまでと変わりません。



相談窓口の認知経路 n=730（不明分を除く）



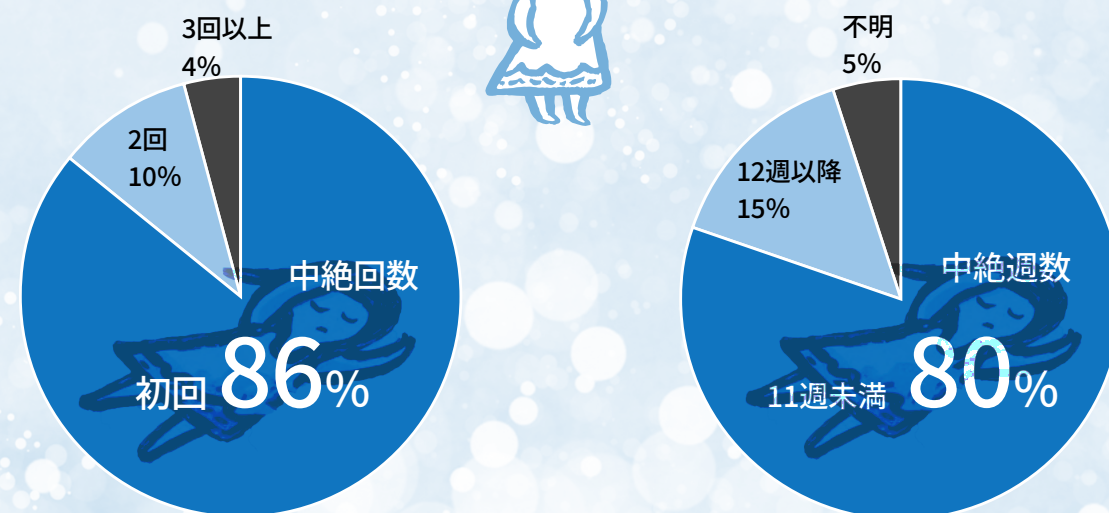
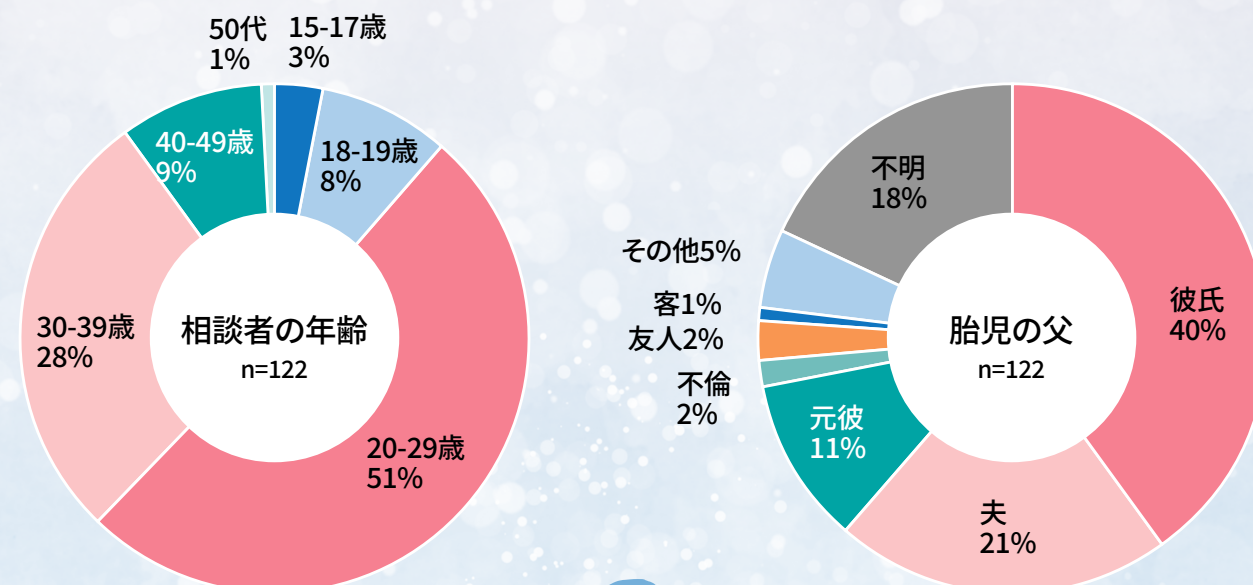
中絶後の相談窓口

PUPU プー



PUPUはハワイ語で2枚貝を意味します。中絶によって固く閉ざされた心をやさしく包み込む場所でありたいという思いを込め、開設した窓口は6年目を迎えます。1週間に1度。文通のようにゆっくりしたペースで、相談をメールでお受けしています。相談員は、月に1度のミーティングや勉強会で、中絶に関しての課題や、対応への理解を深められるよう努めています。

2025年度の相談者数は122人。対応回数は442件。一人あたりの平均対応回数3.6回。最多対応回数は55回でした。女性からの相談が中心で、男性からの相談は1人のみ。また、未婚の方が59%、既婚の方は23%でした。



2 居場所事業

project HOMEは「潮だまり」をつくるプロジェクト

安全なHOME（居場所）を持たず、漂流する妊産婦のために、安心と休息と希望を届けたい——。そんな想いととも、2020年に若年妊婦のための居場所「びさら」の運営を開始しました。

ピッカラーレが目指すのは、寄せてくる波や時間によってさまざまに姿を変える「潮だまり」のようなHOMEです。制度や枠組みに利用者を当てはめるのではなく、訪れた一人ひとりに合わせて変化する居場所でありたい。私たちは、利用者にとっての「安心」「休息」「希望」を大切にする関わり方を日々模索しながら、これからもHOMEづくりを続けていきます。

project HOME

しずくが紡ぐ、新たな潮だまり。



「にんしん」のその先も。
一人ひとりが自分のHOMEに
たどりつくまで



中絶をしても、出産をしても。
子どもと暮らしても、離れて暮らしても。
「びさら」を卒業した先も続く暮らしの中で疲れてしまって、
先が見えなくなる日や、ずっと抱えてきたしんどさに、
再び立ち止まってしまうこともあるでしょう。

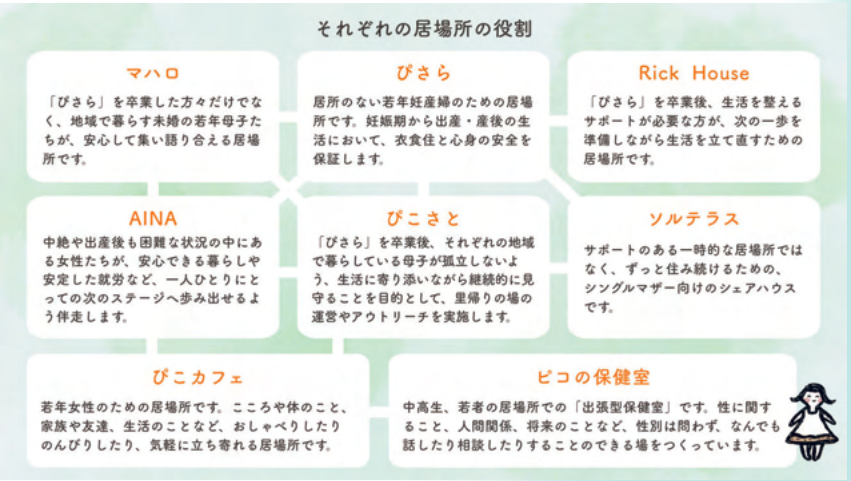
そんな時に、里帰りのようにふっと戻る場所。
「ここにいていいんだ」と思える場所。
仲間に出会いまた歩き出せる場所。

「びさら」のその先も。
一人ひとりが自分のHOMEにたどりつくまでつながり続け、
必要な人や支援につないでいく。
project HOMEには今、
いくつかの“潮だまり”のような居場所が生まれています。

安心して戻ることができるHOMEを、皆さんと一緒に育てたい

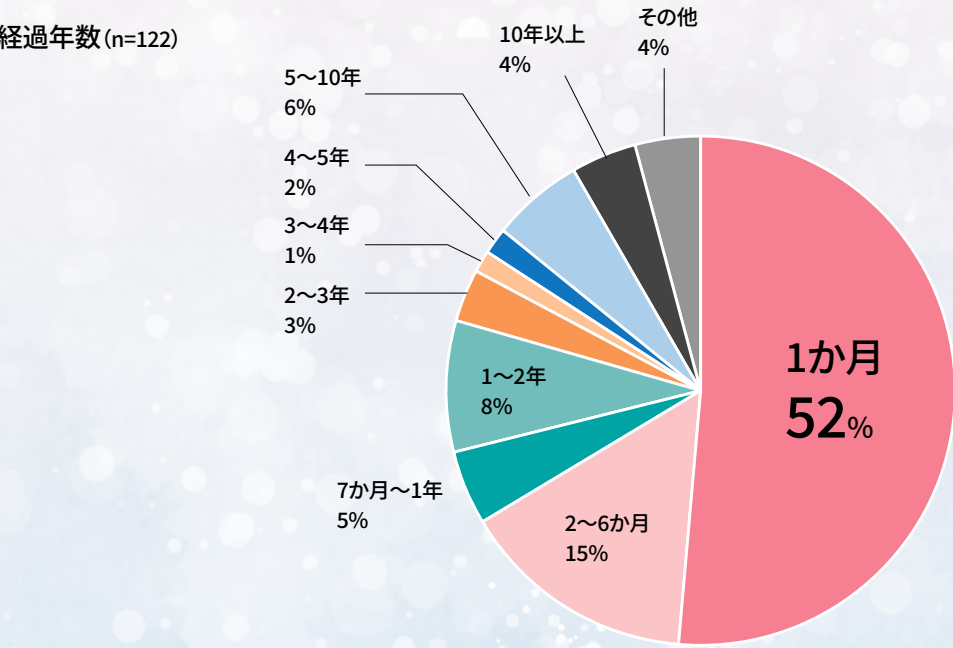
これらの居場所は、
私たちが出会った一人ひとりの「生き延びてきた力」を、
その人自身が「自由に幸せに生きる力」へと少しずつ
育てていくための居場所です。

いつか自分のHOMEを見つけられるように。「にんしん」という大きな出来事のその先の人生への寄り添い方は、まだまだ手探りで、日々悩みながらの取り組みですが、ピッカラーレだけでなく、他の支援機関、地域との協働も大切にしながら、一人ひとりが安心して生きられる「HOME」を見つけられるその日まで、人生のさまざまな場面で安心して戻ることができるHOMEを、皆さんと一緒に育て続けたいと思います。



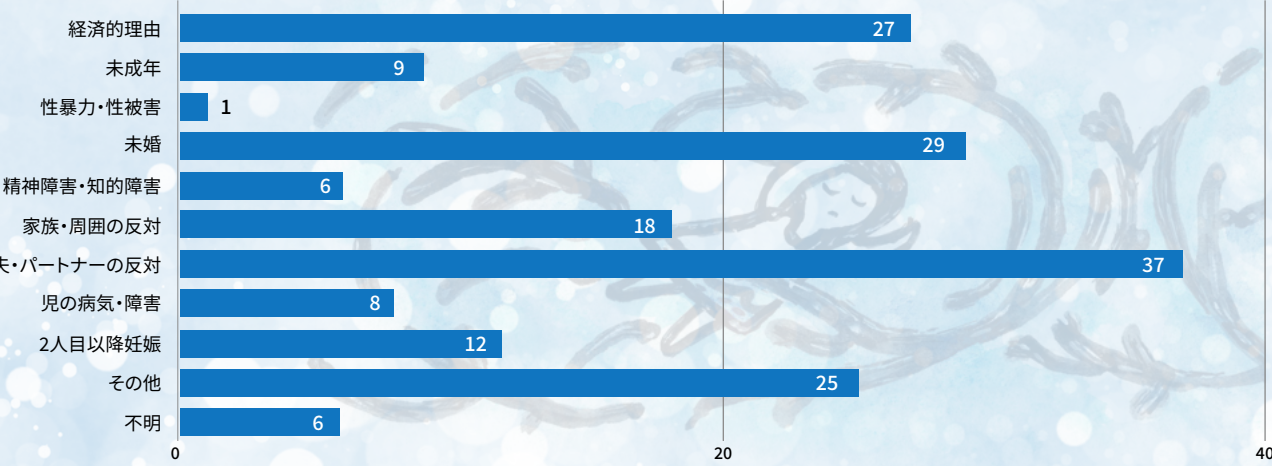
中絶後の相談窓口 PUPU プー プー

中絶後から相談に至るまでの経過年数は1ヶ月以内が51.6%と最多ですが1年以上経過してからの相談は22.9%。内5年以上経過した相談は9.8%を占めます。この結果は長い時間を経ても過去の中絶経験に苦しんでいる人がいらっしゃることを示しているとも考えられます。



中絶理由としては、夫・パートナーの反対による中絶が2025年度は最多を占めました。経済的理由や未婚による中絶も目立ちます。その他の理由としては、パートナーの逮捕や離婚などの理由がありました。どのケースも背景が複雑で、単純に分類できないものが目立ちました。

中絶理由(複数選択)



2-1 若年妊婦の居場所 ぴさら & ぴこさと

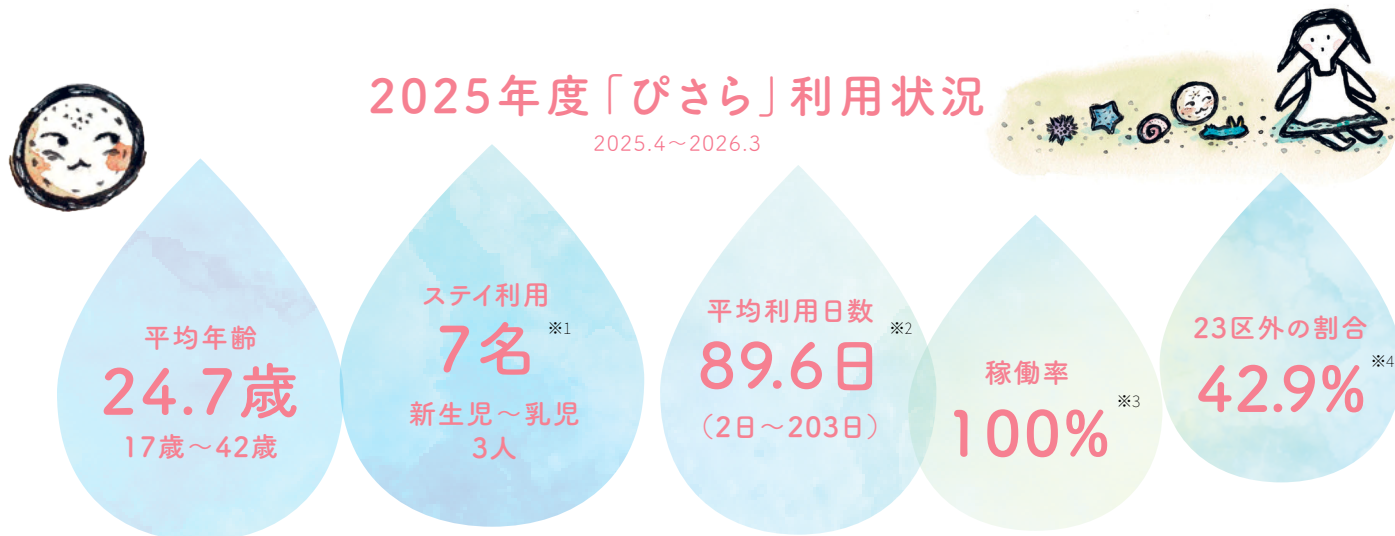


「ぴさら」「ぴこさと」の活動拠点は「豊島区地域貢献型空き家活用事業」を活用し運営を行っています。

6年目を迎えたproject HOME「ぴさら」ー 2025年度も365日年中無休での運営*となりました。

「ぴさら」は妊娠して居場所を失った妊婦が、安心して妊娠期～産後を過ごすためのお家＝「HOME」です。産むか産まないか、生まれた子どもを自分で育てるか、誰かに託すか…一緒に考えていくことができます。2025年度も東京都から「妊産婦等生活援助補助事業」の事業者として選定され、運営を行いました。

「ぴさら」はHOME 「ぴさら」を利用する人たちは、想像もできない程たくさんの困難を経験し、なんとか生き抜いてきた人たちです。これまでは生き抜くことに精一杯で、自分の心と体を休めるための居場所がなかったともいえます。だからこそ「ぴさら」では、まずは衣食住を心配せず、安心して心と身体をゆっくりと休めることができるように、そして安心を感じられる「HOME」の中で、抱えている困難を一つ一つ手放し、今のこと、これからのことをゆっくりと考えていけるよう支えています。



●「ぴさら」は妊娠の週数によらず利用を開始することができますが、2025年度の利用者は妊娠中期以降での利用となりました。

●「ぴさら」利用者の連携機関は、医療機関、福祉事務所、保健センター、生活福祉課、子ども家庭支援センター、児童相談所、民間支援団体、弁護士、母子生活支援施設など、多岐にわたります。これら他機関との連携において「ぴさら」では、利用者の権利擁護を念頭においたソーシャルワークを行うことを大事にしています。

※1 利用者の中には、出産～産後を「ぴさら」で暮らした後、生まれてきた赤ちゃんと一緒にパートナーとアパートなどで生活をする方もいます。その場合はアパートでの3人暮らしを始める前に、パートナーも「ぴさら」に数日宿泊し、滞在中にスタッフの見守りの中で実際に新生児のお世話や家事など、赤ちゃんがいる生活を体験してもらうこともありました。また、産後まもない母子の緊急受け入れも対応しました。

※2 平均利用日数は引き続き、長期化する傾向があります。産後の身体の回復や赤ちゃんとの生活に慣れるまでにこれまでに以上に時間が必要な場合もありました。母子生活支援施設への拒否感が強い、あるいはアパートの契約に時間がかかるなど「ぴさら」の次の行き先が中々決まらないなどの理由で利用が延長されることもありました。

※3 稼働率＝「ぴさら」で妊婦を1人以上受け入れていた率

※4 例年同様に広域での利用が多い傾向がありました。

ぴさら卒業生の居場所「ぴこさと」ー 新たな地域で暮らしはじめた母子が孤立しないために

2023年度より本格的に開始したアフターケア「ぴこさと」。「ぴさら」卒業後、それぞれの地域で暮らしはじめた母子が孤立しないよう、疲れたとき、誰かに話を聞いてもらいたくなったとき、そんなときにふと立ち寄って、羽を休めることができる実家のような居場所が「ぴこさと」です。これまで母子ショートステイや「赤ちゃん会」「よちよち会」、遠足など、卒業生が「ぴこさと」に集う活動を行ってききましたが、行政窓口での手続きや病院への同行、引っ越しや片付けの手伝いなど、個別ニーズの高まりから、アウトリーチでの活動が増えた1年でした。

「ぴさら」卒業後も社会と安全につながって生きていくことができるように、他機関と連携をしながらそれぞれの地域のつながり先を確保しつつ、「ぴこさと」も彼女たちのつながり先の一つとしてあり続けたいと思います。

2025年度 「ぴこさと」利用状況

2025.4～2026.3

お仕事会・よちよち会・赤ちゃん会他イベント

64回

延べ参加者数
108人

母子ショートステイ(レスパイト)

4回

延べ利用人数
12人

個別対応

41回

延べ利用人数
66人

2-2 地域で暮らす未婚の若年母子の居場所 マハロ



「マハロ」は地域に開かれた居場所であり、皆さんが温かく見守ってくださっています！

孤独や不安をやわらげながら、支援が特別ではなく日常の中にある、そんな温かい社会を目指して

「マハロ」は、「ぴさら」を卒業した方たちだけでなく、地域で暮らす未婚の若年母子たちが安心して集い語り合える居場所として、2025年度から東池袋に新しい拠点を獲得して活動を開始しています。「マハロ」はハワイ語で「ありがとう」「感謝」「愛」という意味があります。「マハロ」につながってくれた仲間に、「ここに居てくれてありがとう」「あなたはそのまま大丈夫」と伝えたいーそんな想いが名前に込められています。

そしてここは「お母さん」という固定観念にとらわれず、互いを受け入れ合い、つながりを育む場所です。2025年度は、ハロウィンやクリスマス、ひな祭り、お花見など、ひとりでは難しい季節ごとのイベントを母子ともに楽しみました。孤独や不安をやわらげながら、支援が特別ではなく日常の中にある、そんな温かい社会をマハロの活動では目指しています。



マハロの参加者からは、「大人と話せることがうれしい」「居心地が良くて、時間が過ぎるのが早い!」「温かいご飯が出てくる♪」といった声がありました。

マハロにいる時は「お母さん」という肩からちょっとおろして、「あなたがそのまま」でいられる時間にもなるようにーそんな想いで活動を続けています。



活動拠点は東池袋の地域の「おうち」～ピアな関係で繋がる居場所づくり～

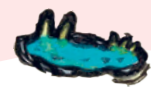
●マハロの活動は、豊島区がUR都市機構と結んだ「豊島区における若者の居場所創出の促進に関する協定」のもと活用できることとなった、東池袋の一戸建てのお家を拠点として活動しています。お家には「らびな」という名前をつけました！

●しばらく空き家だったお家のリフォームにあたっては、ピアスタッフが中心になって居場所のコンセプトを考えながら、壁紙やカーテン・家具などのインテリア用品を一つ一つ選んで、この場に集う人たちみんなにとって居心地の良い空間になるように場づくりを進めました！

●7月には、地域の方やピッカラーレの活動を支援してくださる方にこの新しい拠点をつくっていくプロセスをぜひ見ていただきたいと思います、「オープンデー」を開催!20組の皆さんが足を運んでくださり、たくさんの方々とあたたかなつながりを感じた時間となりました。

2 - 3

若年女性のための居場所

AINA
& ピコカフェ

AINAは同年代の参加者とスタッフが
ともに時間を過ごす場です！

2025年
秋～
Start

ピッコラーレにつながった女性たちが支えあい、つながりあえる場をつむぐ— AINA

ピッコラーレにつながる女性たちの多くは、妊娠、中絶、出産のあと、さまざまな生きづらさやトラウマを抱えながら日々を生活しています。これまで何とか生き延びてきた彼らのこれからを応援したい。「生き延びてきた力」が、その人自身のこれからの人生を「自由に幸せに生きる力」へと少しずつ変化することが叶えられるような豊かな「大地」となれるように。そんな想いを込めて、ハワイ語で「大地」を意味する「AINA」という名前をつけました。

「ここに居てもいいかもしれない」「いつか、別の環境に行ってみたい」

そんな気持ちが、本人のタイミングで芽生えていくように。安心できる時間、空間、そして関係性を、どうしたら仲間とともに育んでいけるのか。わたしたちはピアスタッフや参加者の皆さんとともに、模索しながらこの場作りを進めています。

2025年度「AINA」利用状況

2025.4～2026.3

「みんなで勉強じかん」など
イベント開催

18回



延べ参加者数

大人 35人

子ども 20人



「AINA」では、同年代の参加者が一緒に温かい食事を囲みます。ゆったりと過ごしたり、他愛のない話をしたり、ときには何もなかったり。そうした何気ない時間を通して、ゆっくりと「安心安全」を身体から取り戻していきます。そしてその先で、彼女たちが「本当はやってみたいかったこと」に少しずつ向き合っていきます。

「住まいを整えたい」「安定して働きたい」「学び直したい」「資格を取りたい」
——「それを叶えるためにはどうしたらいいのかな。」「一緒にやってみよう!」
と伴走する誰かと出会える場所。それがAINAです。



気軽に立ち寄れる若年女性のための居場所—「ぴこカフェ」

こころや体のこと、家族や友達、生活のことなど、おしゃべりしたりのんびりしたり、若年女性が気軽に立ち寄れる居場所「ぴこカフェ」。2025年度は自主事業として活動を継続しました（2024年度までの4年間は豊島区からの委託事業）。

10代～30代まで幅広い層に利用されている「ぴこカフェ」は、カフェのように、その過ごし方は本当にさまざま。気軽に立ち寄って軽食を食べて、スタッフとおしゃべりしたり、ネイルをしたり、占いをしたり。本を読んだり、休憩でちょっと仮眠を取ったり。利用を継続する中で、体のこと、人間関係のこと、生活や学校・仕事のことで相談が出てくる人もいます。リピーターも多く、それぞれにとっての戻れる居場所として定着しています。



ぴこカフェの開催日時とは変更となる可能性がありますので、最新の情報はピッコラーレのSNS(X・Instagram)にてご確認ください。

2025年度
「ぴこカフェ」利用状況

2025.4～2026.3

「ぴこカフェ」開催数

12回

第3火曜日
14:00-18:00

延べ参加人数

105人



2 - 4

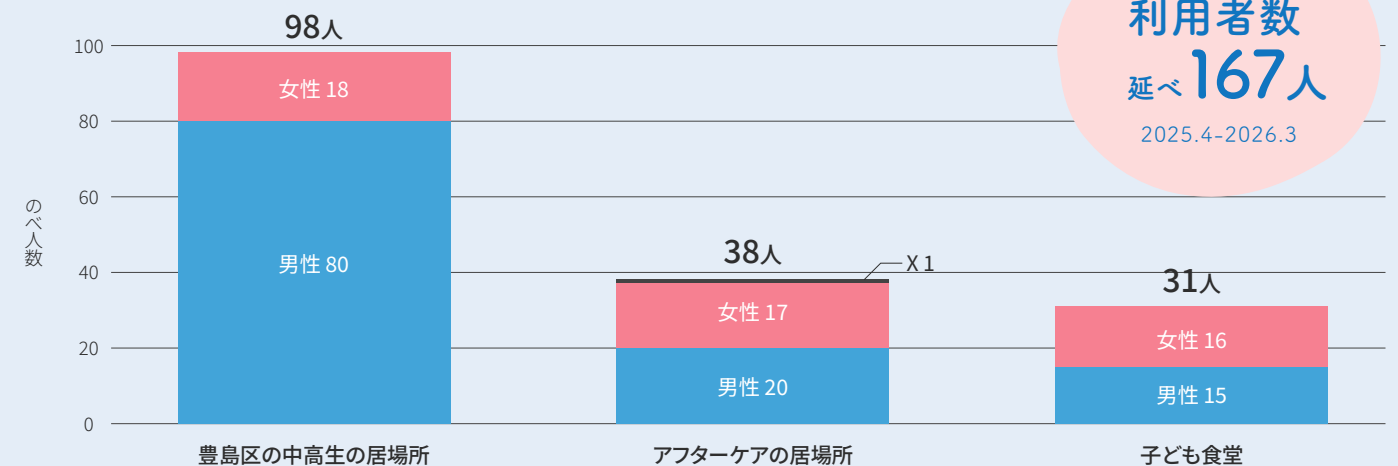
出張「ピコの保健室」

ピコタイムでの包括的な
性教育の実践

出張保健室事業は5年目になりました。167人の参加がありました。

ピッコラーレでは、ピッコラーレの居場所に来ていただく居場所事業のほかに、地域にある居場所に私たちが何う出張保健室を行っています。居場所では、その場の目的や年齢層によっても相談の内容に違いがあり、性に関する知識だけでなく、仕事・生活・恋愛・将来への不安など、若年成人が直面する生活課題へと広がっています。出張保健室は、性と生殖に関する健康と権利（SRHR）の相談窓口であると同時に、若者が安心して日常の悩みを相談できる居場所としての役割も果たしていると言えます。そして、特に、10代においては学校教育だけではなく、学校以外の場所における、包括的なセクシュアリティ教育の実践の場となっています。

出張保健室 参加者の内訳



豊島区の中高生の居場所

避妊 性感染症
性的同意 月経
マスターベーション
射精 デートDV

教育や指導ではなく
対話や雑談を大事に

特徴

- 男子利用が多い
- 性教育に直結する相談が多い
- 「知識を知りたい」「確認したい」という相談が目立つ
- 性教育の個別フォローを担う場



アフターケアの居場所

生活 仕事
こころ 恋愛

- 男女比はほぼ同じ
- 性だけではなく生活相談や恋愛・人間関係についての話が多い
- 心理面や生活面の相談が特徴
- 信頼関係を土台とした相談の場



子ども食堂

恋愛 仕事
月経 進路

- 男女比はほぼ同じ
- 恋愛・仕事・進路など幅広い相談
- 月経相談など女性特有の相談もみられる
- 若者の生活全般を支える相談の場



3-1 研修事業



支援者養成研修、リニューアルして再始動！

1年の準備期間の中で、プログラム内容のさらなる充実・運営体制の強化を図り、2025年度から支援者養成研修が再始動しました。相談支援事業を軸としたプログラムのほか、居場所のない妊産婦のための居場所「ぴさら」の実践を切り口としたプログラム、そして、単科講座として中絶後の相談窓口「PUPU」や「包括的性教育（ピコの保健室など）」をテーマとした講座を開催しました。

2025年度テーマ

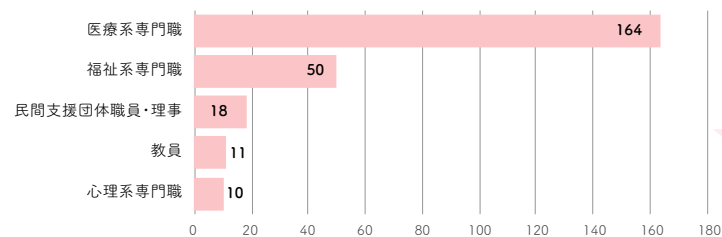
妊娠葛藤の現場から～ひとりのあなたを知りたい、あなたをひとりにしない～

開催形式	開催形式	申込者数
妊娠葛藤相談対応コース(知識編)	オンライン	99人
妊娠葛藤相談対応コース(実践編)	対面	48人
妊産婦の居場所生活支援コース(知識編)	オンライン	49人
妊産婦の居場所生活支援コース(実践編)	対面	31人
中絶後の相談窓口「PUPU」から見えること(単科)	オンライン	47人
妊娠葛藤相談から考える包括的性教育(単科)	オンライン	76人

総申込者数
350人



参加者職種（アンケート有効回答分のみ）



その他の職種として、議員、学生、産後ドゥーラ、弁護士など幅広い職種の方にご参加いただきました。

参加者の感想

- 事例を通してどのような支援をおこなっていくか説明していただいたことで、具体的なイメージができた。
- 女性や若者たちの「生の声」をたくさん知ることができてよかった。
- 妊産婦等生活援助事業を始めるにあたり、いろいろな課題が見えてきました。
- 机上の学びだけでなく、ロールプレイで実践できたので学びが深まった。
- 支援者として抱えるモヤモヤが自分だけではないと思った。なんとかしたいと感じている人が周りにいることを実感できた。



参加者の所属先

全国各地のにんしんSOS窓口、妊産婦等生活援助事業者、医療機関（病院、助産院等）、母子生活支援施設、乳児院、他の民間支援団体（若者支援団体、性暴力被害者支援団体等）学校（高校、大学、専門学校）、行政機関（中央省庁、市区町村、教育委員会等）など幅広くご参加いただきました。



3-2 研修事業

New
千葉県
教育委員会

\ New /

千葉県教育委員会「ライフステージにおいて妊娠を考える教育事業」がスタートしました！

ピッコラーレは、『「にんしん」をきっかけに、だれもが孤立することなく、自由に幸せに生きていくことができる社会』を目指して、現場支援の経験をもとにした研修や講演などを通して、地域の多様なステークホルダーと学びあい、つながりあい、新たな気づきをえる啓発活動も積極的に行っています。

25年度は、千葉県教育委員会の「ライフステージにおいて妊娠を考える教育事業」（新規）において、県立高校の生徒向け講演および教職員対象の研修担当として、ピッコラーレもプロジェクトに参画しました。

1. 県立高校（7校 約1,600名）へ性教育講演

思いがけない妊娠の予防に関する知識とともに、もし妊娠した場合でも、一人で抱えこまずに相談できるよう、ピッコラーレが運営する相談窓口「にんしんSOSちば」（千葉県より委託）等を紹介しました。また、性に関する相談の垣根が低い「ユースフレンドリーな空間」を体験してもらうことを目的に、希望のあった学校には、講演後にピコの出張保健室「ピコタイム」（体験会）をしました。

講演実施校

千葉県立流山北高等学校	約200名
千葉県立佐倉南高等学校	約380名
千葉県立木更津東高等学校定時制	約 90名
千葉県立我孫子東高等学校	約330名
千葉県立船橋北高等学校	約200名
千葉県立船橋高等学校定時制	約180名
千葉県立茂原樟陽高等学校	約200名

2. 県内教職員向け研修（県内5箇所で開催）

生徒が妊娠した場合でも、学業や就職などをあきらめることなく、自らが望むライフステージを思い描けるように一学校として当事者の「自己決定」をどのように支えることができるか、グループワーク等を通してともに考えを深めました。また、地域の支援機関について知り、相互のネットワークを広げる機会としていただくために、今回の研修には教職員だけでなく、母子保健を担う行政職員の皆さんにも参加いただきました。

対象

県内公立中学校・高等学校・特別支援学校の教職員
県内の関係機関行政職員（医療機関関係者含む）

参加
78人



県立高校向け性教育講演



希望校に実施したピコの出張保健室「ピコタイム」（体験会）は、多くの生徒が気軽に立ち寄ってくれるなど大変好評でした！



県内教職員向け研修



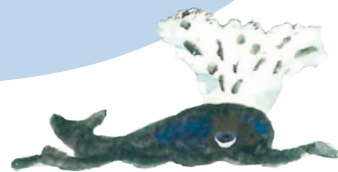
参加者からは「事例を聞いて勉強になった」「他職種とのワークが新鮮で学びがあった」「教員の困りごとがわかってよかった」「保健師とつながれてよかった」など、前向きな感想が多数寄せられました。

性教育研修会オンデマンド研修



「ライフステージを考える教育（教職員向け研修）」の一環として、千葉県教育委員会主催「性教育研修会」においてオンデマンド研修の制作も担当。県内公立小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教職員の皆さんに「にんしんSOSちば」を知っていただく良い機会となりました。

4 調査研究・政策提言



「妊産婦等支援ネットワーク形成全国フォーラム」を開催しました！

「妊産婦等生活援助事業」の法定事業化にともない、全国各地に困難な状況におかれた妊産婦の生活を支える拠点が生まれ始めています。一方で、より必要な方に必要な支援を届けるために、関係機関との連携の強化や、支援者間で学び合いエンパワメントしあえる「横のつながり」が求められています。

これを受けて、国は「特定妊婦等支援機関ネットワーク形成事業」を立ち上げ、ピッコラーレがこども家庭庁から補助を受けて全国フォーラムを開催しました（企画・運営サポート：認定NPO法人PIECES、公益社団法人小さないのちのドア、認定NPO法人かものはしプロジェクト）。当日は、様々な機関・地域から約200人が参加し、妊産婦等の支援をめぐる現状や課題、今後の支援のあり方などについて活発に対話がなされ、様々な視点が共有されました。



プログラム

Day 1 2025 12/6

- 妊産婦等生活援助事業について
- 3団体からの実践報告
- パネルディスカッション
～妊産婦等生活援助事業により、
特定妊婦等の支援環境はどう変化したのか～

Day 2 2025 12/7

- 分科会① ● ケース検討セッション(母子生活支援施設×医療機関)
● 妊産婦等生活援助事業におけるレジデンシャルソーシャルワークの視点
- 分科会② ● ケース検討セッション(乳児院×民間法人)
● 運営セッション(妊産婦等生活援助事業所×自治体担当者)
● 未来語りのワークショップ

2025年度委員・理事（代表 中島かおり）

こども家庭庁 検討委員会

- プレコンセプションケアの提供のあり方に関する検討会
～性と健康に関する正しい知識の普及に向けて～ 委員
- こども家庭審議会 社会的養育・家庭支援部会 委員

自治体

- 沖縄県 「若年妊産婦専門支援員養成講座」検討委員会 委員
- 豊島区 社会福祉法人豊島区民社会福祉協議会 理事

ヒアリング協力

- 自民党 孤独・孤立対策特命委員会「内密出産」について考えるPT

調査研究協力

こども家庭庁

- 諸外国における妊娠を他者に知られたくない女性が出産する場合の法・制度及び母子の権利保護の在り方に関する調査研究
- 予期せぬ妊娠等による支援が必要な妊産婦の効果的な支援プロセス等に関する調査研究

総務省

- 困難を抱える妊産婦の支援に関する調査

主な講演・メディア実績

2025年4月～2026年3月

講演実績

■医療法人

社会医療法人社団健生会 立川相互病院

■民間団体

一般社団法人ドゥーラシップジャパン

NPO法人CRファクトリー

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

認定NPO法人PIECES

あさリッチ

社会福祉法人慈愛会 女性自立支援施設 慈愛jiai

社会福祉法人 渋谷区社会福祉事業団 母子生活支援施設 ブルーメ

特定非営利活動法人自殺対策支援センターライフリンク

認定特定非営利活動法人ブリッジフォースマイル

チューリッヒ生命保険株式会社

一般社団法人SRHR Japan

八王子手をつなぐ女性の会

JPモルガン証券株式会社

富士通株式会社

■教育関係

多摩大学

上智大学アジア文化研究所

東京家政大学

埼玉県立飯能高等学校

日本女子大学

■行政

東京都ひとり親家庭支援センター はあと

独立行政法人国際協力機構

千葉県健康福祉部子育て支援課 母子保健班

こども家庭庁 支援局 虐待防止対策課

愛媛県保健福祉部 生きがい推進局 子育て支援課

品川区健康推進部 品川保健センター

■学会・シンポジウム

一般社団法人日本トラウマティック・ストレス学会

第66回日本母性衛生学会総会・学術集会

全国自立援助ホーム協議会 第30回記念

大阪大会「つなぐ、つながる」～地域に根差し、“わたし”に寄り添う～

赤い羽根福祉基金 第10回助成記念成果報告会

メディア掲載

■新聞

東京新聞(2025/04/03)

空き家を利活用し若者の居場所に 豊島区とURが新たに協定
NPOへ無償貸与「安心できる環境で働く意欲を」

東京新聞(2025/04/13)

「一人じゃないよ」夜の歌舞伎町で若者の言葉に耳を傾け続ける
KIYOさん 自分にも苦しんだ過去があるから

毎日新聞(2025/05/15)

緊急避妊薬の市販化急いで

読売新聞(2025/06/30)

〔医療ルネサンス〕

プレコンセプションケア〈4〉若者の性の悩みに対応

毎日新聞(2025/11/16)

「Tachinbo joshi」に絶句 フランス人が見た歌舞伎町

■オウンドメディア

たまひよONLINE(2025/04/19)

【前編】「病院にかかることが難しい外国人の妊婦」
「生き延びるため、パートナーではない人と暮らして妊娠した女性」
いくつもの出会いが活動の原動力に
【後編】『アフタービルはだれのためのお薬なんですか?』
10代からの質問にハッとしたこと。中高生への性教育で見える
日本社会が抱える課題

日テレNEWS(2025/08/21)

内密出産どうする?“有料の仕組み”は「実態に合わない」指摘も
― 持続可能な支援には「資金面」に課題

文化時報社「福祉仏教 for believe」(2026/03/12)

独りぼっちの妊娠をなくしたい ピッコラーレ

■ラジオ

FMらら(2025/6/12、19、26)

KBS京都(2025/7/11)

■雑誌

Forbes Japan(2025/10/25)

ソーシャルR&Dを実装するNPO50





Thank You

あたたかいご支援、ありがとうございます！



補助金・助成金でのご支援

- Panasonic NPO／NGOサポートファンド for SDGs [国内助成]
- シングルペアレンツ・エンパワメント・プログラム by American Express(Asian Venture Philanthropy Network)
- JOICFP SRHR for ALLアクション！ 日本におけるすべての人のSRHRとジェンダー平等のためのセクター間連携事業
- 住宅確保困難者向け事業モデルの構築支援事業(資金分配団体:一般社団法人ソーシャル・イノベーション・パートナーズ)
- 公益財団法人 昭和池田記念財団
- こども家庭庁 特定妊婦等支援機関ネットワーク形成事業
- 東京都 妊産婦等生活援助補助事業
- 豊島区 若者の居場所事業

企業・団体からのご寄付やご支援(敬称略)

団体賛助会員 ● テクマトリックス株式会社

ご寄付

- 朝日ライフアセットマネジメント株式会社
- ADYEN JAPAN
- Kharismira株式会社
- 株式会社サウンドハウス
- 株式会社ストラテジックキャピタル
- チューリッヒ生命保険株式会社
- 4EVER Capital 株式会社
- 有限会社マ・メール

TechMatrix

ALAMCO
朝日ライフ アセットマネジメント

Kharismira
○○○○

SOUNDHOUSE

Strategic Capital
株式会社 ストラテジックキャピタル

※一定額以上のご支援をいただいた法人・団体さまを掲載しています。(敬称略・50音順)

物品寄付(敬称略)

- ニシイケ食堂
- ピルボックスジャパン株式会社
- 一般社団法人コラボなみらい
- 銀平グローバル株式会社
- 株式会社IAM IAM
- 豊島区民社会福祉協議会
- 認定特定非営利活動法人 Hands On Tokyo
- 有限会社MOALIS

個人の方からのご寄付やご支援

賛助会員
45名

マンスリーサポーター「ピコサポ」
300名

都度のご寄付
303名

「ありがとうブック」への寄付
7名

個人の皆さまから Amazonウィッシュリストや乳児用衣類等物品寄付のご支援もいただきました！

冬の寄付キャンペーン



妊婦が孤立せず、つながることができる社会へ — 年末年始も、“妊娠のSOS”は止まらない —

(2025年11月20日～2025年12月26日実施)



11月から12月にかけて、年末年始に孤立する妊婦への支援を募る冬の寄付キャンペーン「妊婦が孤立せず、つながることができる社会へ— 年末年始も、“妊娠のSOS”は止まらない—」を開催しました。目標金額300万円のところ、最終的に**162名**の方から**4,125,110円**ものご支援をいただき、無事に終了することができました。ご支援だけでなく、周知や情報拡散など、さまざまなかたちでご協力いただいたことにより、支援の輪が広がっていったことを、とても嬉しく感じております。

支えてくださったみなさま、本当にありがとうございました！

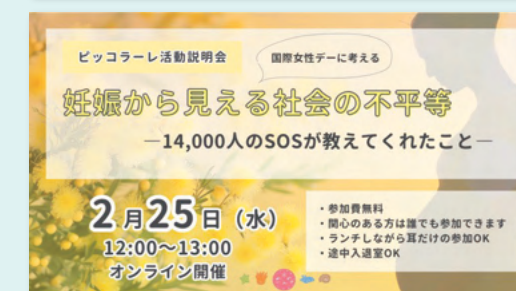
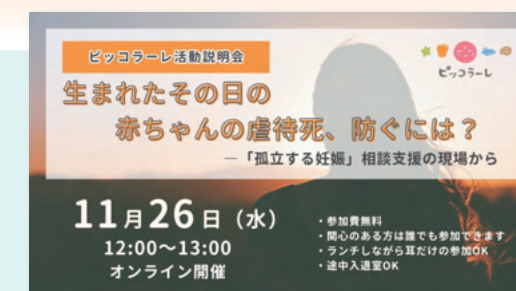
また、寄付キャンペーン期間中には、ピッコラーレの活動を少しでも多くの方に知っていただけるよう、活動説明会(オンライン)を3回開催し、延べ**165名**の方にお申し込みいただきました。さらに、ピッコラーレとしては初めてInstagramを活用したインスタライブも開催し、多くの方に観ていただくことができました。

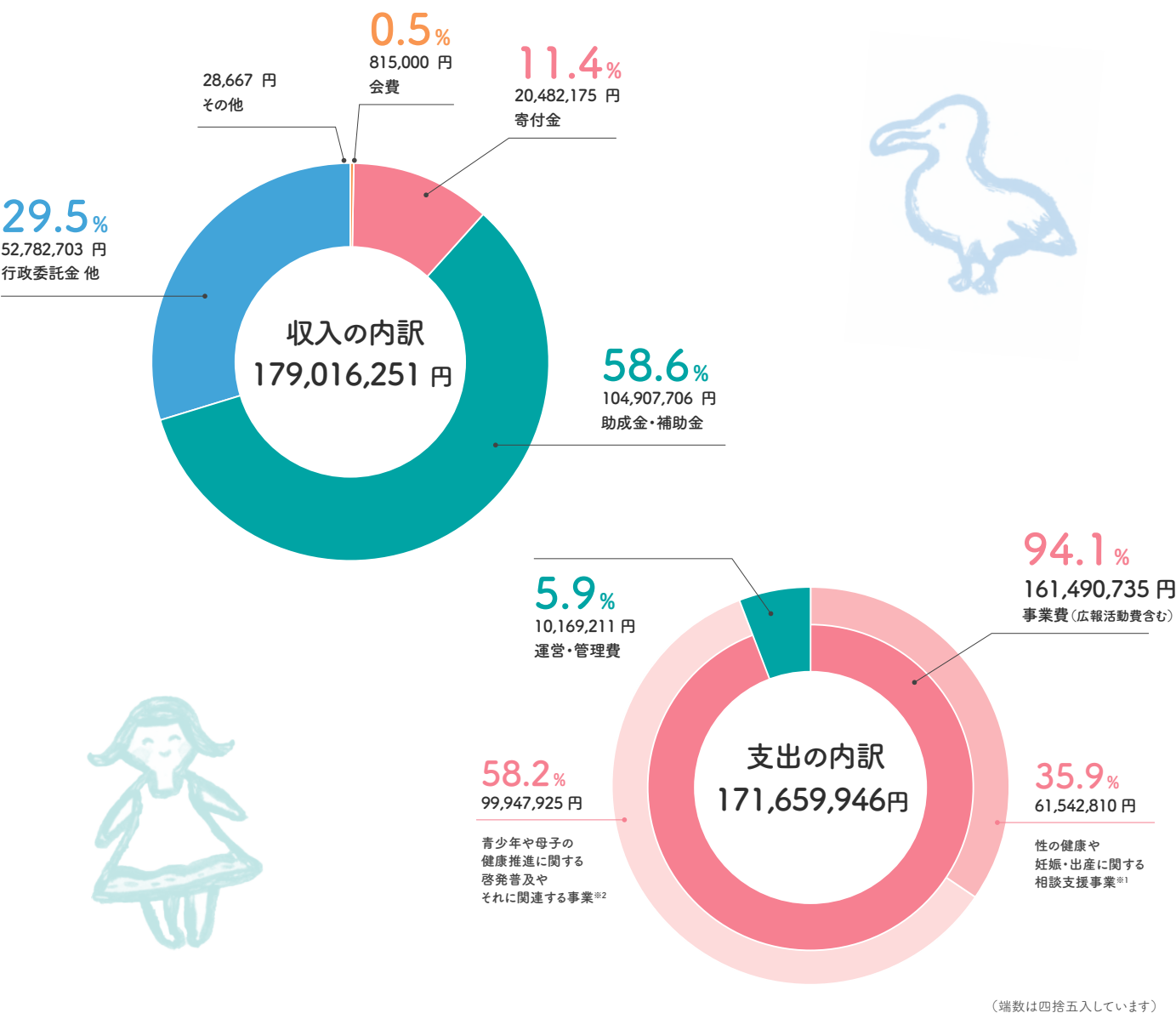
活動説明会

2025年度は11回活動説明会を開催し、469名の方にお申し込みをいただきました。2025年度は、児童虐待防止推進月間や国際女性デーなど、社会の動きとあわせたテーマを設定した活動説明会を開催することで、より多くの方に興味をもってご参加いただくことができました。さまざまな切り口から私たちの活動や取り組んでいる課題について知っていただけるよう、今後も定期的に活動を紹介するイベントを開催していきます。



活動説明会の詳細は
ホームページのお知らせに記載していますので、
ぜひお気軽にご参加ください。





科目		金額
会費	正会員受取会費・賛助会員受取会費	815,000
受取寄付金		20,482,175
受取助成金等	受取助成金・受取補助金	104,907,706
事業収益	性・健康や妊娠・出産に関する相談支援事業収益	46,840,960
	青少年や母子の健康推進に関する啓発普及やそれに関連する事業収益	5,941,743
その他の収益	受取利息・雑収入	28,667
経常収益 計		179,016,251
事業費	人件費	87,234,599
	その他諸経費	74,256,136
	事業費 計	161,490,735
管理費	人件費	4,566,918
	その他経費	5,602,293
	管理費 計	10,169,211
経常費用 計		171,659,946
当期経常増減額		7,356,305
経常外収益		0
経常外費用		0
当期計上外増減額		0
税引前当期正味財産増減額		7,356,305
法人税・住民税及び事業税		70,000
前期繰越正味財産額		24,918,296
次期繰越正味財産額		32,204,601

※1 性・健康や 妊娠・出産に関する相談支援事業：相談支援、研修・啓発、調査研究・政策提言 ※2 青少年や母子の健康推進に関する啓発普及やそれに関連する事業：居場所事業



ご支援のお願い

ピッコラーレは、2022年12月に認定NPO法人になりました。
認定NPO法人ピッコラーレへのご寄付は、
「寄付金控除」の対象になります。



ピッコラーレの活動は、皆さまのご支援に支えられています。「『にんしん』をきっかけに、だれもが孤立することなく、自由に幸せに生きることができる社会」の実現に向けて、広報やご寄付等での応援、どうぞよろしくお願いします。

寄付をする

妊娠で孤立しない社会をつくるために、
サポーターとしてピッコラーレの活動に参画してくださる方を募集しています。

マンスリーサポーター制度『ピコサポ』

毎月の継続的なご支援です
1,000円、2,000円、3,000円、5,000円、10,000円、30,000円
の6種類から選べます。



マンスリーサポーターの登録は、
クレジットカード決済のみとなります。

都度のご寄付

いつでもご寄付いただけます。

ご寄付の方法



クレジットカード

各種クレジットカードをご利用いただけます。



<https://piccolare.secure.force.com>
※マンスリーサポーター、クレジットカード、賛助会員すべて共通です。

郵便振替

口座番号：00130-0-515041
口座名義：トクヒ)ピッコラーレ

お振込

ゆうちょ銀行
記号：00130 番号：515041

※他行よりお振込みの場合
店名 ○一九(019)
当座 0515041
特定非営利活動法人ピッコラーレ

※お振込にてご寄付いただいた方は、お手数ですが、お名前、電話番号、郵便番号、住所のご記入をお願い致します。お礼のご連絡や活動の報告をさせていただきます。

賛助会員になる

わたしたちの活動にご賛同頂き、
継続的に参加・協力・支援くださる
賛助会員を募集しています。

賛助会員年会費

個人 一口 5,000円
団体 一口 50,000円



その他の支援方法

YAHOO! JAPAN ネット募金



PayPay POINT

Yahoo!ネット募金は、クレジットカードは100円から、PayPayは1円から、Vポイントは1ポイントから寄付が可能です。

Yahoo! JAPAN IDをお持ちであれば、所要時間 約1～2分で寄付が完了します。いただいた寄付は相談事業に関わる費用や若年妊婦のための居場所「びさら」の運営資金などピッコラーレの活動全般に活用させていただきます。

つながる募金

ソフトバンクの寄付サービス。携帯電話利用料金やTポイントのお支払いと一緒にご寄付いただけます。



ありがとうブック

ご不用になった本・DVD・CD・ゲームなどをお送り頂くことで、支援できる仕組みです。



お宝エイド

使わなくなったお家に眠っている“お宝”をお送りいただくことで、支援できる仕組みです。



書籍を買う



妊娠葛藤白書
ーにんしんSOS東京の現場から
2015-2019 ー
発行：NPO法人ピッコラーレ